

令和 7 年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	中学 2	学校名	県立太田第一高等学校附属中学校						課程	—	学校長名			谷津 勉		
教頭名	[全日制] 益子 諭				[定時制] 塩谷 直人				[附中] 鐵 めぐみ			事務（室）長名			椎名 実	
教職員数	教諭	12	養護教諭	1	常勤講師	0	非常勤講師	4	実習教諭、実習講師、実習助手	0	事務職員	5	技術職員等	10	計	31
生徒数	1 年				2 年				3 年			合計			合計 クラス数	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女		
	20	20	19	20	20	19	59	59	3							

2 目指す学校像

グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校

3 現状分析と課題（数量的な分析を含む。）

項目	現状分析	課題
学習指導	- R6 生徒アンケート「先生は授業の内容や方法を、生徒の学び方に合わせて工夫している。」 肯定的評価 86% - R6 生徒アンケート「先生は生徒の理解度に合わせた学習支援やアドバイスをしている。」 肯定的評価 94% - R6 保護者アンケート「教員はわかりやすい授業を展開している。」 肯定的評価 88% - R6 保護者アンケート「教員は、生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考える時間を設けている。」 肯定的評価 90%	- 学習における理解度に個人差が見られるため、習熟度や少人数など、生徒一人一人の理解度に応じた支援・指導を行う必要がある。 - 自分から課題を見付けて、解決することを繰り返した探究的な学びのスタイルを確立する必要がある。
進路指導	- R6 保護者アンケート「教員は、将来の進路や職業について、生徒たちが考える機会を設けている。」 肯定的評価 84% - R6 保護者アンケート「教員は、将来の進路や職業について悩	キャリアパスポートを活用し、小学校から連続したキャリア教育を推進し、自己理解を深めたり将来の目標を設定したりする場面を増やす必要がある。

別紙様式 1 (中)

	みの相談にのってくれる。」 肯定的評価 72%	・教育相談や生徒面談を活用し、生徒の進路や職業について相談できる場を設定する。
生徒支援	・R6 生徒アンケート「教員は生徒を理解し、生徒に合った指導をしている。」 肯定的評価 94% R6 保護者アンケート「教員は生徒の悩みの相談にのっている。」 肯定的評価 82%	・教育相談や生徒面談を活用し、生徒の小さな変化やサインを見逃さない、日常的・定期的な情報収集による多角的な実態把握と早期対応を行う必要がある。 ・不登校等の背景にある要因を多面的に把握し、学校・家庭・関係機関で情報を共有しながら組織的に支援していく必要がある。
特別活動	・R6 生徒アンケート「本校の生徒会活動、委員会活動やホームルーム活動は活発である。」 肯定的評価 90% ・R6 保護者アンケート「学校の行事は、生徒主体で行われており、活発である。」 肯定的評価 98%	・建設的な話し合い活動や討論・討議を充実させ、生徒全員が協働して取り組むホームルーム活動を推進する必要がある。 ・生徒会活動の充実を通して、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力の育成に努める。
働き方改革への取組	・教職員の意識は向上しているが、年間を通して月の超過勤務の合計が 45 時間を超えている教職員がみられる。 R6 時間外在校等時間 月平均 38 時間 17 分、45 時間超過者割合 28.5%	・分掌の中を精選し、業務分担や協働体制を確立することで、業務の効率化と平準化を図る必要がある。 ・超過勤務時間を削減し、教職員の健康維持を心掛け、ワークライフバランスを改善する必要がある。

4 中期的目標

- (1) 6 年目を迎えた中高一貫教育校の特長を活かし、中高連携の強化と 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現に努める。
- (2) 探究を軸とした学びのスタイルの質を高め、課題解決能力の向上に努める。(探究を軸とした学びの推進)
- (3) 予測困難な社会に目を向け、他者と協働しながら、主体的に諸課題を解決することができる資質・能力を育成する。(シティズンシップ教育の充実)
- (4) 多様な学びができる環境を提供し、グローバルな視野で思考・表現・判断できる資質・能力を育成する。(ダイバーシティ教育の推進)
- (5) 教職員の協働体制を構築し、業務の効率化を進め、生徒一人一人に寄り添う指導の実現に努める。

5 本年度の重点目標

	重点項目	重点目標
(1)	・ 6 年間を見通した教育課程に基づく深い学びの実現	・ 学習内容の習熟度に応じた学習や少人数指導等の充実 生徒アンケート「先生は授業の内容や方法を、生徒の学び方に合わせて工夫している。」90% (R6 86%)、「先生は生徒の理解度に合わせた学習支援やアドバイスをしている。」98% (R6 94%)、R6 保護者アンケート「教員はわかりやすい授業を展開していると聞いている。」肯定的評価 90% (R6 88%)
(2)	・ 探究を軸とした学びの推進	・ 「探究プロジェクト」や「中高連携活動」を活用し、他校の生徒や高校生・異学年の生徒たちとの意見交換による課題解決を体験する。 ・ 様々な活動において、生徒同士で話す・伝える場を設定し、自分の考えを伝えることができる。 生徒アンケート「教員は、生徒同士で話し合ったり、教員に質問したりする機会を設けている。」100% (R6 98%)
(3)	・ シティズンシップ教育の充実	・ 建設的な話し合い活動や討論・討議の充実 ・ 生徒会活動を活発化させ、自治的能力や主権者として積極的に社会参画する力の育成に努める。 生徒アンケート「教員は、生徒が課題を設定し、議論し、解決策を考える時間を設けている。」100% (R6 97%)
(4)	・ ダイバーシティ教育の推進	・ 中学3年終了時点で、英検準2級相当の生徒の割合 50%を目指す。(R6 35%) ・ 東京グローバルゲートウェイ (中1)、ブリティッシュヒルズ (中2)、オーストラリア海外留学体験 (中3) の経験を通して、英語力とコミュニケーション能力の向上を図り、異文化理解を深める。
(5)	・ 1 か月平均超過勤務時間数の削減	・ 協力体制を再構築し、業務の効率化を推進するための具体的な方策と工夫を行うことにより、1 か月平均超過勤務時間数を全職員が 45 時間以下にする。 教職員の超過勤務時間 45 時間以下 100%